

男女共同参画に関する市民意識調査結果
(抜粋)

調査の概要

■ 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識を把握し、今後の施策の参考にするとともに、平成 23 年に策定した湖西市男女共同参画推進計画「女と男のプラン」の全面改訂の基礎資料とするため、市民意識調査を実施した。

■ 調査対象

湖西市在住の 18 歳以上の男女 1,500 人 ※無作為抽出

■ 調査方法

郵送による配布・回収

■ 調査時期

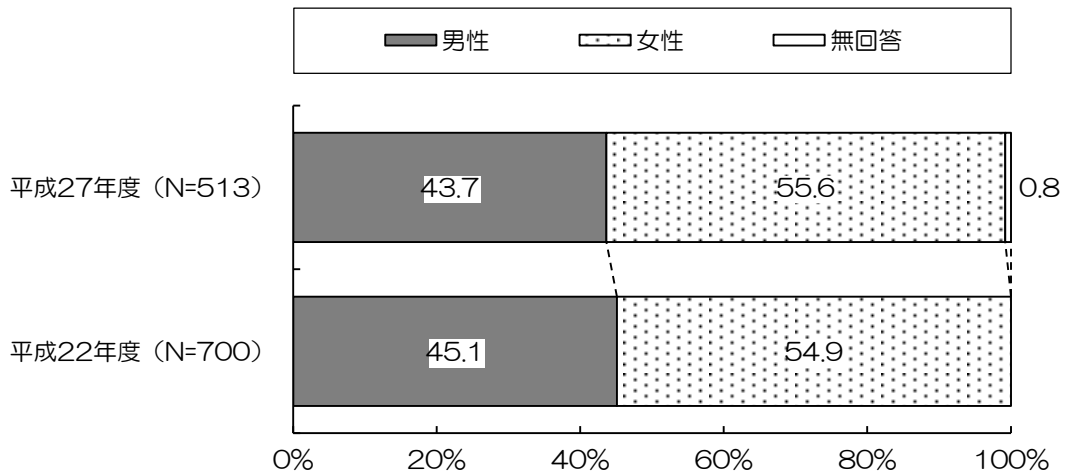
平成 27 年 7 月

■ 回収状況

- ・ 配布数 1,500 票
- ・ 有効回収数 513 票
- ・ 有効回収率 34.2%

I 属性

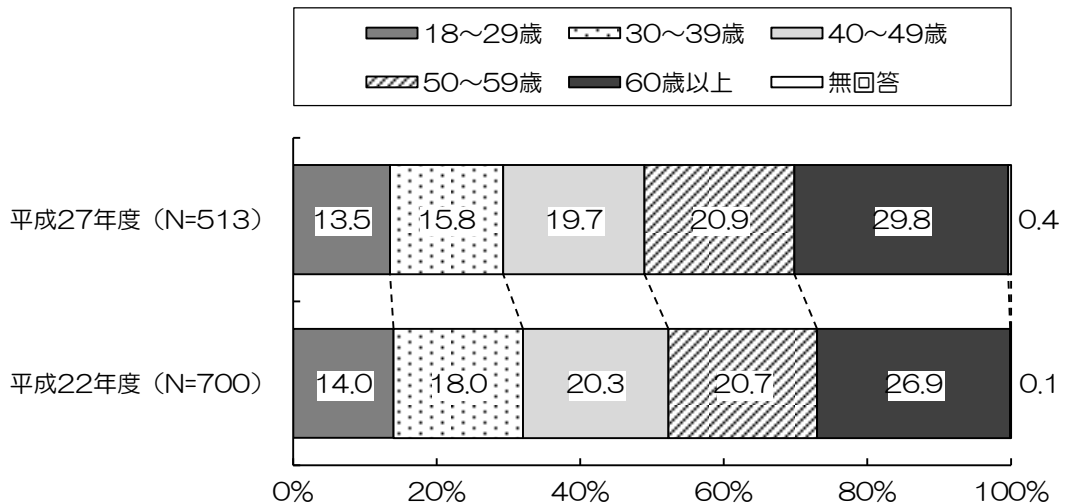
問1 あなたの性別をお答えください。(1つを選択)



性別は、「男性」が43.7%、「女性」が55.6%となっています。

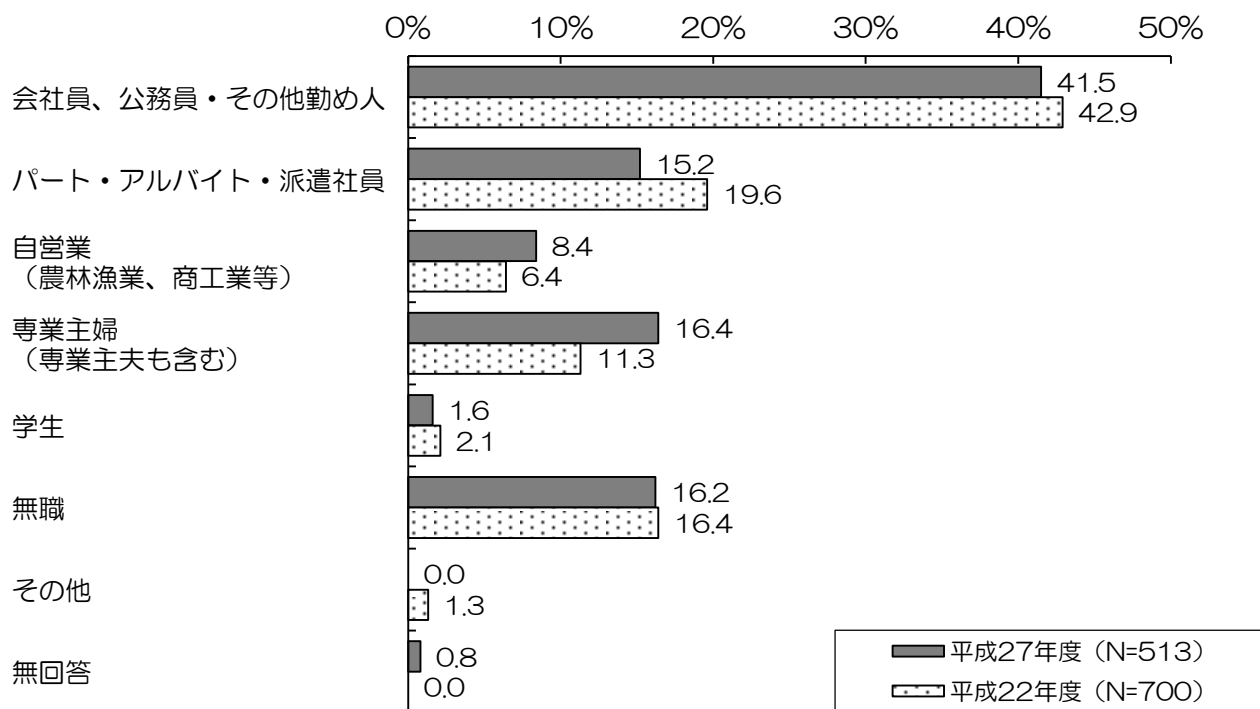
問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(1つを選択)

※6月1日現在の年齢をお選びください。



年齢は、「18~29歳」が13.5%、「30~39歳」が15.8%、「40~49歳」が19.7%、「50~59歳」が20.9%、「60歳以上」が29.8%となっています。

問4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(兼業の方は主なものをお選びください。)
(1つを選択)



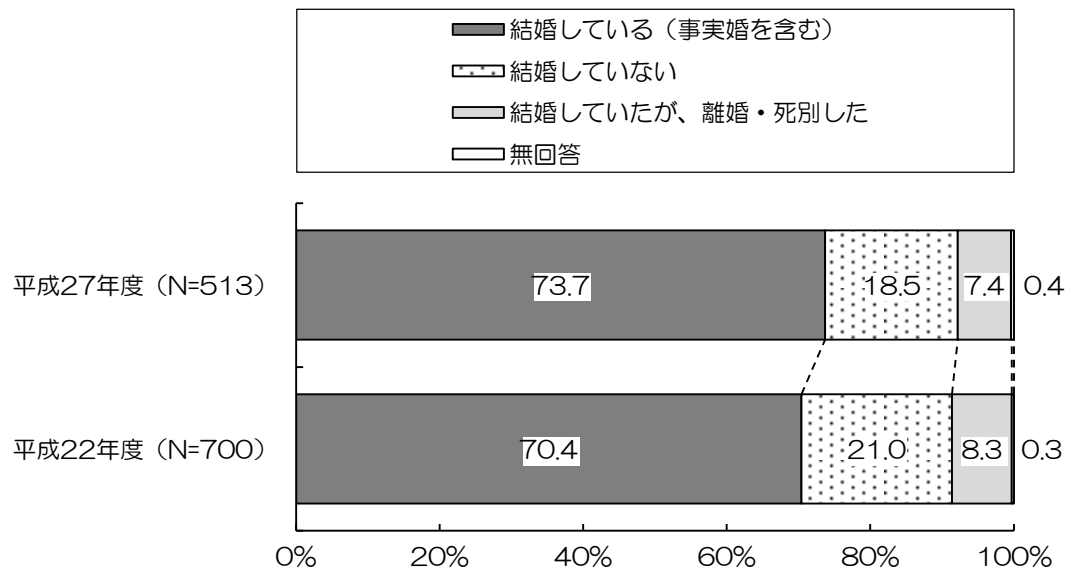
平成27年度

(単位：％ (調査数は人))

	調査数	会社員、公務員・その他勤め人	パート・アルバイト・派遣社員	自営業 (農林漁業、商工業等)	専業主婦 (専業主夫も含む)	学生	無職	その他	無回答
全体	513	41.5	15.2	8.4	16.4	1.6	16.2	0.0	0.8
男性	224	59.8	3.1	12.5	0.0	1.3	22.8	0.0	0.4
女性	285	27.4	24.6	4.9	29.5	1.8	11.2	0.0	0.7
18～29歳	69	66.7	4.3	0.0	13.0	11.6	4.3	0.0	0.0
30～39歳	81	50.6	16.0	2.5	29.6	0.0	1.2	0.0	0.0
40～49歳	101	57.4	24.8	5.0	10.9	0.0	1.0	0.0	1.0
50～59歳	107	51.4	22.4	7.5	13.1	0.0	4.7	0.0	0.9
60歳以上	153	8.5	8.5	18.3	17.0	0.0	47.1	0.0	0.7

就業状況は、「会社員、公務員・その他勤め人」が41.5%と最も多く、次いで「専業主婦 (専業主夫も含む)」が16.4%、「無職」が16.2%などとなっています。

問5 あなたは結婚していますか。(1つを選択)



平成27年度

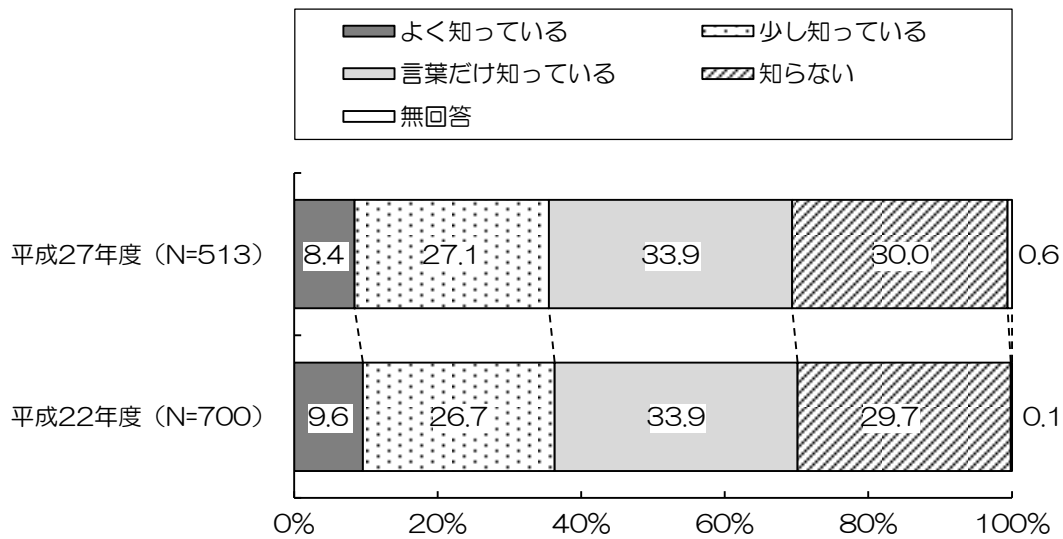
(単位：% (調査数は人))

	調査数	結婚している (事実婚を含む)	結婚していない	結婚していたが、離婚・死別した	無回答
全体	513	73.7	18.5	7.4	0.4
男性	224	73.7	23.2	3.1	0.0
女性	285	73.7	15.1	10.9	0.4
18~29歳	69	27.5	71.0	1.4	0.0
30~39歳	81	76.5	18.5	4.9	0.0
40~49歳	101	75.2	15.8	7.9	1.0
50~59歳	107	85.0	8.4	6.5	0.0
60歳以上	153	84.3	3.9	11.8	0.0

結婚状況は、「結婚している (事実婚を含む)」が73.7%、「結婚していない」が18.5%、「結婚していたが、離婚・死別した」が7.4%となっています。

Ⅱ 言葉・考え方について

問9 『男女共同参画』という言葉・考え方についてどの程度知っていますか。(1つを選択)



平成27年度

(単位：％ (調査数は人))

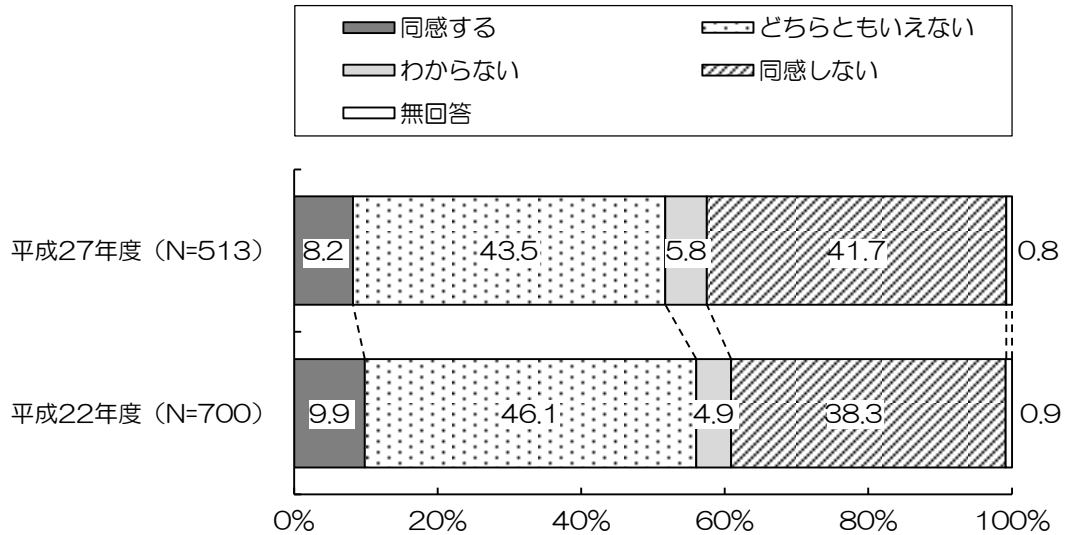
	調査数	よく知っている	少し知っている	言葉だけ知っている	知らない	無回答
全体	513	8.4	27.1	33.9	30.0	0.6
男性	224	13.4	31.3	29.9	25.4	0.0
女性	285	4.6	24.2	37.2	33.3	0.7
18～29歳	69	13.0	36.2	29.0	21.7	0.0
30～39歳	81	1.2	17.3	28.4	53.1	0.0
40～49歳	101	5.9	25.7	30.7	37.6	0.0
50～59歳	107	11.2	27.1	39.3	22.4	0.0
60歳以上	153	9.8	29.4	37.3	22.2	1.3

『男女共同参画』の認知度は、「言葉だけ知っている」が33.9%と最も多く、次いで「知らない」が30.0%、「少し知っている」が27.1%、「よく知っている」が8.4%となっています。

年齢別にみると、“30～39歳”で「知らない」が53.1%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

Ⅲ 社会における男女平等について

問12 『男は仕事、女は家庭』というような男女の役割を固定的に考えること（性別役割分担意識）について、あなたはどのようにお考えですか。（1つを選択）



平成27年度

(単位：％ (調査数は人))

	調査数	同意する	どちらともいえない	わからない	同意しない	無回答
全体	513	8.2	43.5	5.8	41.7	0.8
男性	224	12.5	46.0	4.0	37.5	0.0
女性	285	4.9	41.1	7.4	45.6	1.1
18～29歳	69	11.6	43.5	2.9	42.0	0.0
30～39歳	81	4.9	38.3	4.9	51.9	0.0
40～49歳	101	11.9	47.5	6.9	33.7	0.0
50～59歳	107	2.8	39.3	5.6	51.4	0.9
60歳以上	153	9.2	47.1	7.2	35.3	1.3

性別役割分担意識についての考え方は、「どちらともいえない」が43.5%と最も多く、次いで「同意しない」が41.7%、「同意する」が8.2%、「わからない」が5.8%となっています。

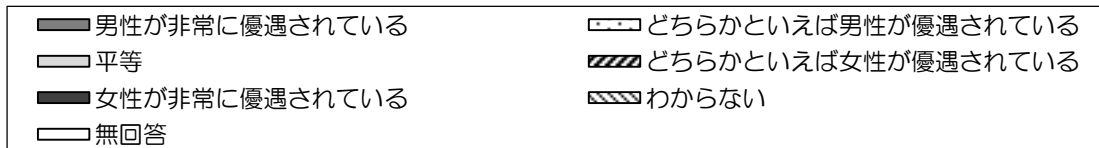
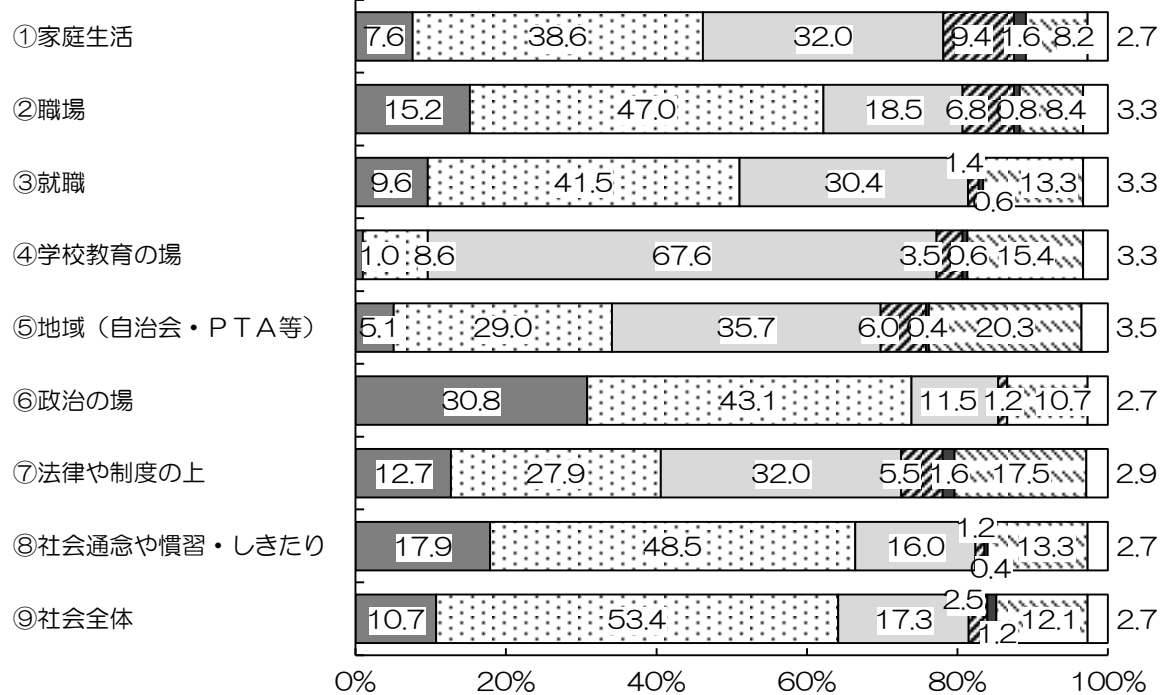
性別にみると、“男性”で「同意する」が12.5%と、“女性”と比べて7.6ポイント多くなっています。

問13 あなたは、次のことごとらについて、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(それぞれ1つを選択)

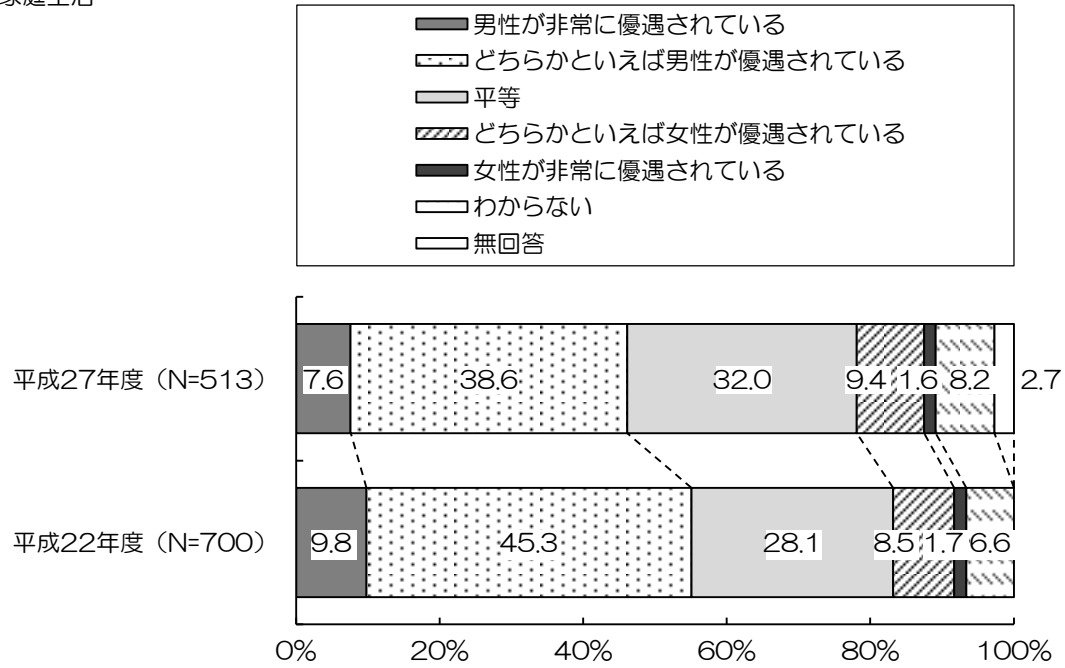
平成27年度

(N=513)

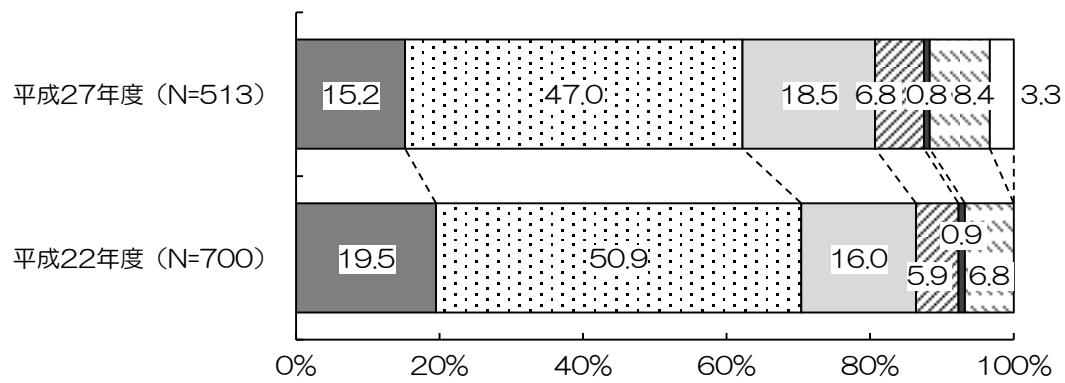


男女の地位の差は、「男性が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇されている』は“⑥政治の場”で73.9%と最も多くなっています。一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」と「女性が非常に優遇されている」をあわせた『女性が優遇されている』は“①家庭生活”で11.0%と最も多くなっています。また、「平等」は“④学校教育の場”で67.6%と最も多くなっています。

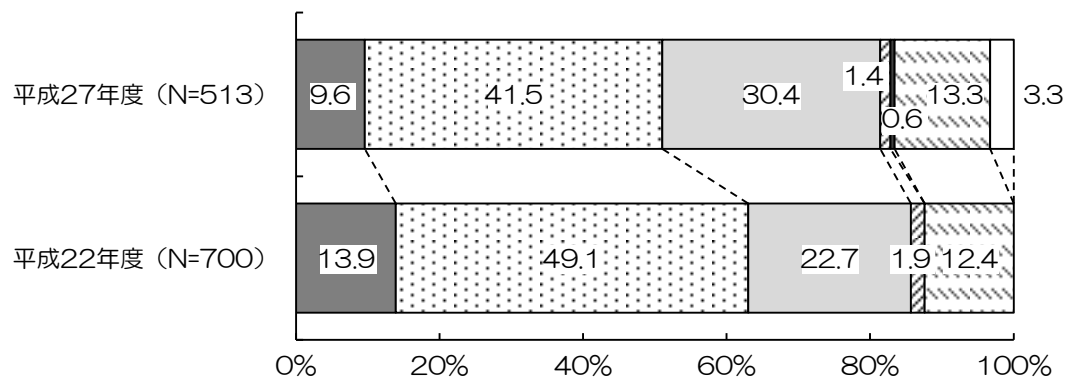
①家庭生活



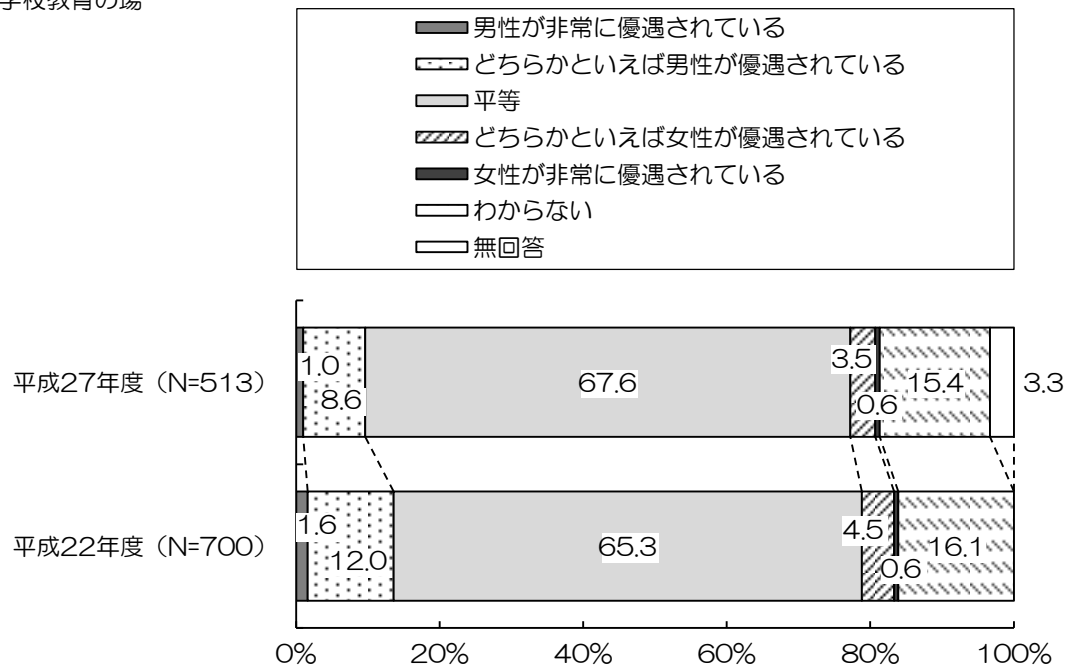
②職場



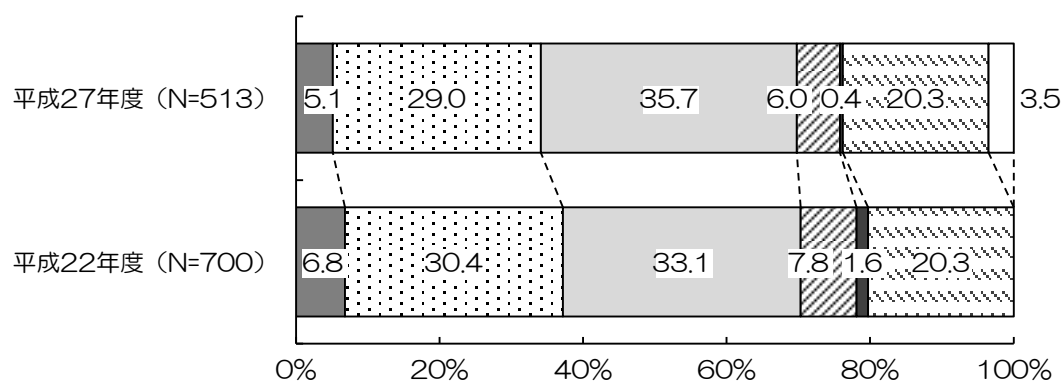
③就職



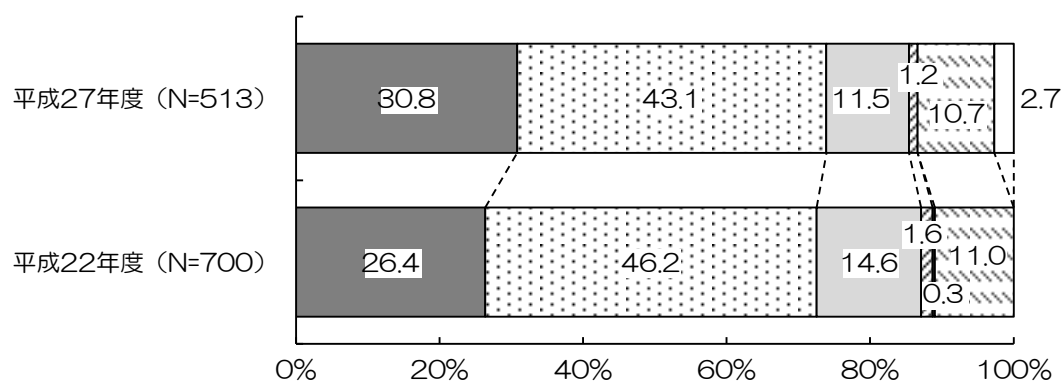
④学校教育の場



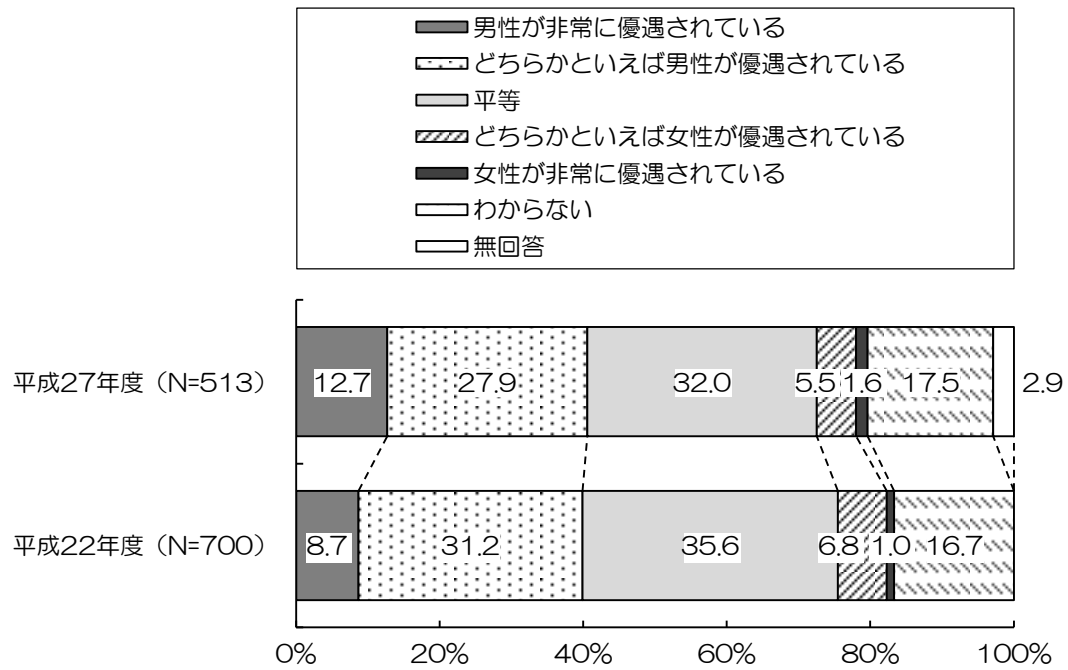
⑤地域（自治会・PTA等）



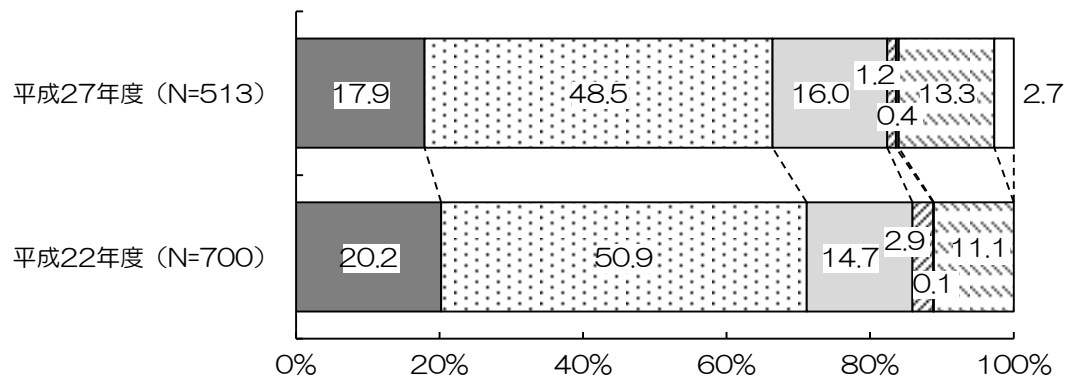
⑥政治の場



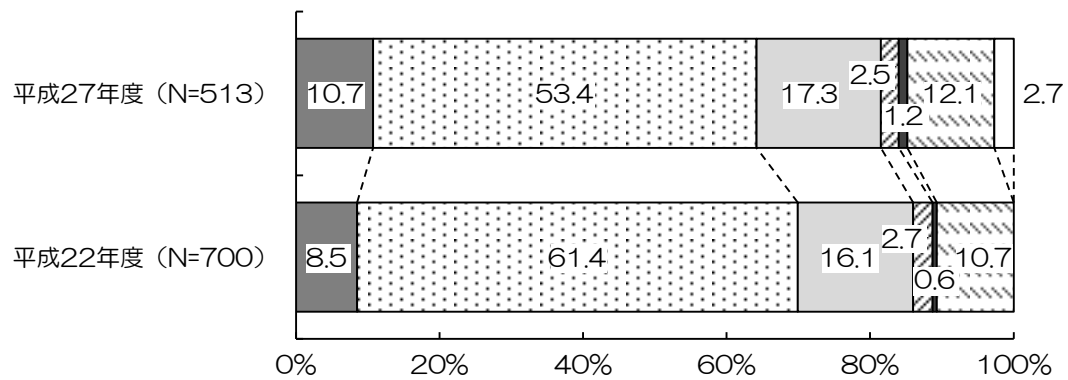
⑦法律や制度の上



⑧社会通念や慣習・しきたり

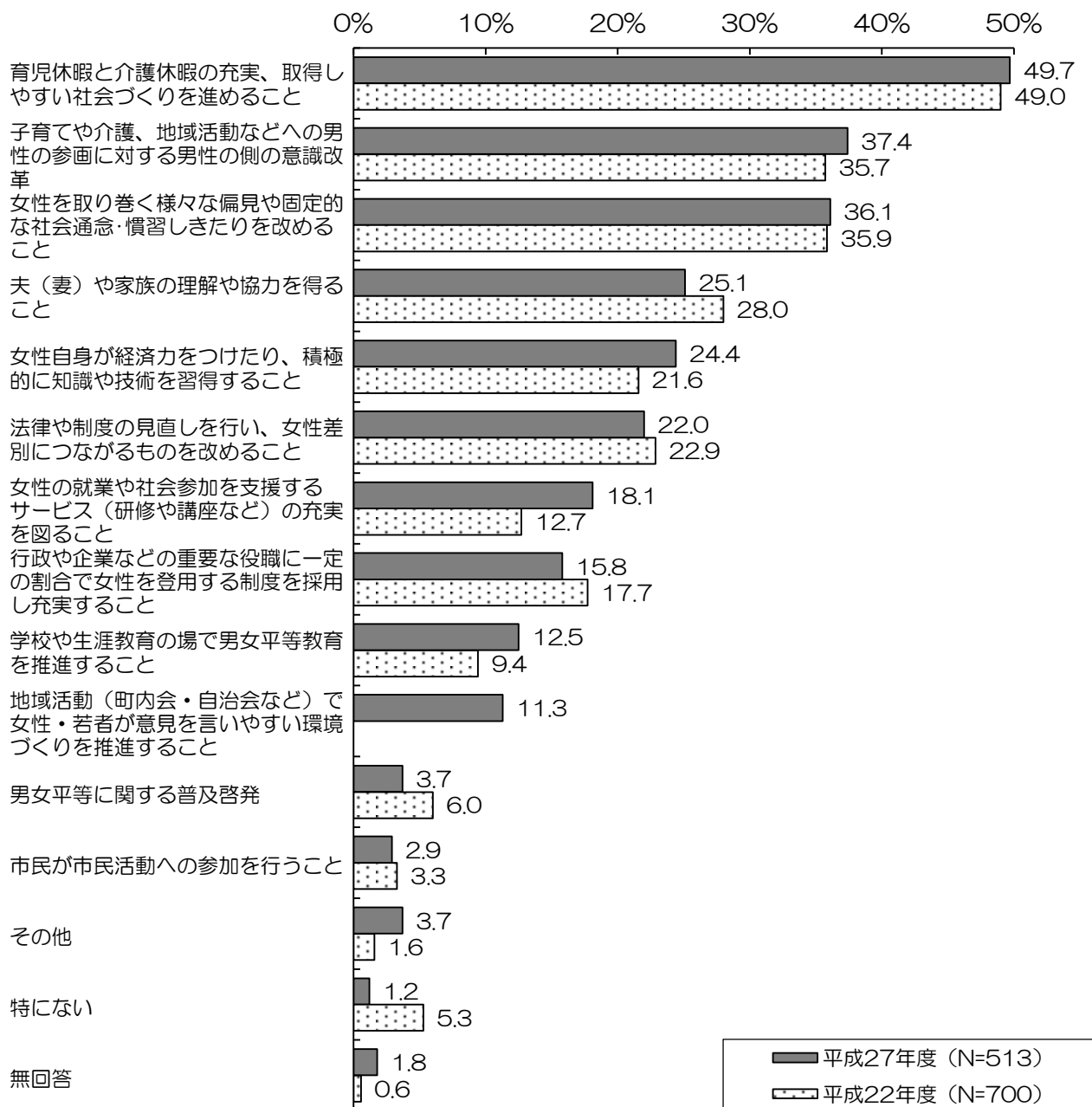


⑨社会全体



問14 男女平等社会を実現するために大切だと思うことはどのようなことですか。

(3つまで選択可)



※選択肢「地域活動(町内会・自治会など)で女性・若者が意見を言いやすい環境づくりを推進すること」は平成27年度に新設。

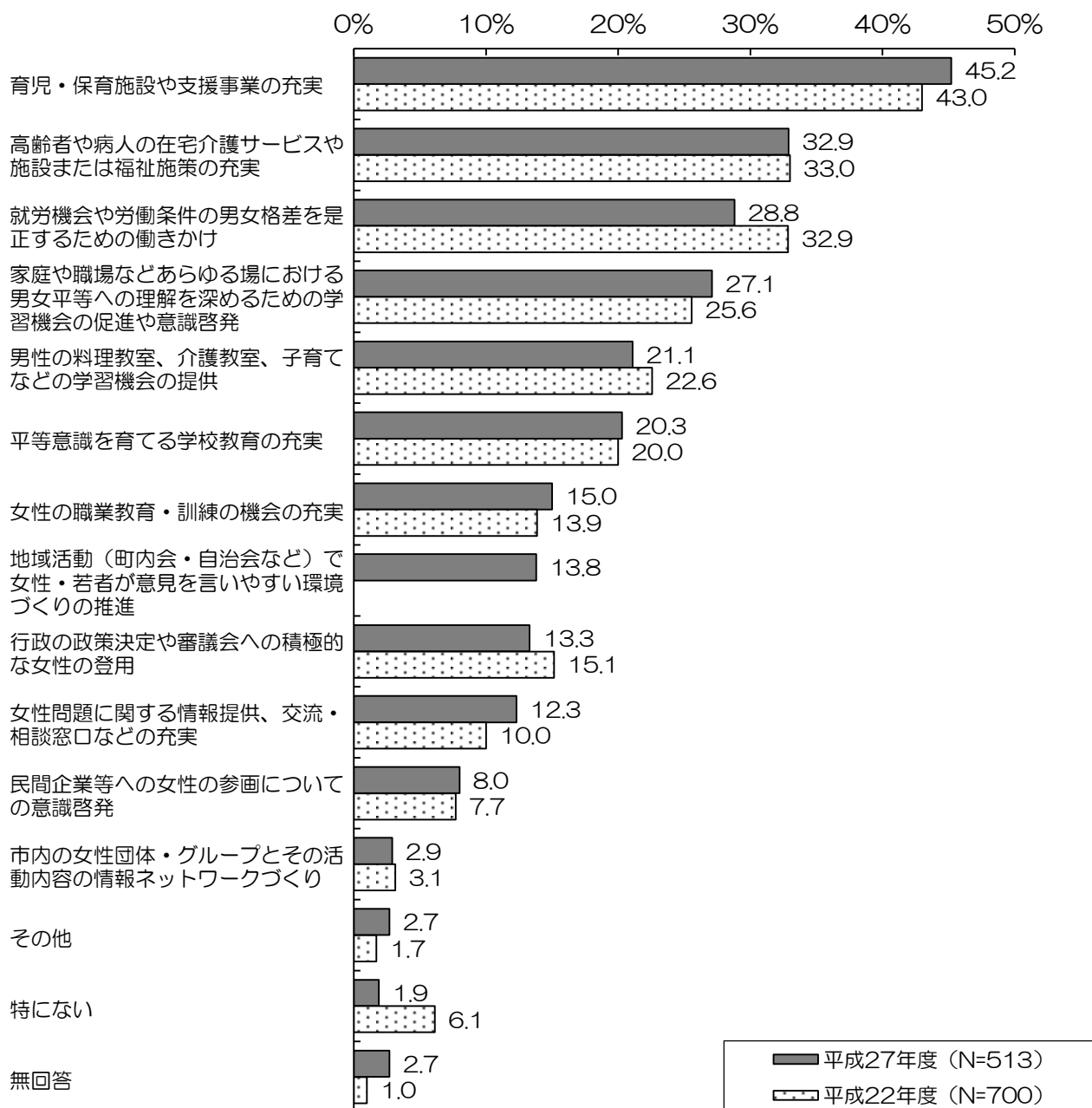
	調査数	地域活動(町内会・自治会などで女性・若者が意見を言いやすい環境づくりを推進すること)	学校や生涯教育の場で男女平等教育を推進すること	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用し充実すること	女性の就業や社会参加を支援するサービス(研修や講座など)の充実を図ること	法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改めること	女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識や技術を習得すること	夫(妻)や家族の理解や協力を得ること	女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念・慣習しきたりを改めること	子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革	育児休暇と介護休暇の充実、取得しやすい社会づくりを進めること
全体	513	49.7	37.4	36.1	25.1	24.4	22.0	18.1	15.8	12.5	11.3
男性	224	44.2	29.9	33.5	25.9	21.9	27.7	12.9	20.5	11.2	12.1
女性	285	54.7	43.5	38.2	24.9	26.3	17.9	22.1	11.9	13.3	10.5
18～29歳	69	60.9	43.5	37.7	26.1	17.4	18.8	15.9	11.6	7.2	7.2
30～39歳	81	58.0	49.4	42.0	30.9	19.8	24.7	19.8	7.4	8.6	9.9
40～49歳	101	55.4	36.6	32.7	23.8	28.7	18.8	12.9	13.9	12.9	9.9
50～59歳	107	50.5	32.7	44.9	22.4	29.0	24.3	23.4	14.0	10.3	10.3
60歳以上	153	35.9	32.7	28.8	24.8	23.5	22.2	18.3	24.8	18.3	15.7

	調査数	男女平等に関する普及啓発	市民が市民活動への参加を行うこと	その他	特にない	無回答
全体	513	3.7	2.9	3.7	1.2	1.8
男性	224	6.3	5.4	4.9	1.8	1.3
女性	285	1.4	1.1	2.8	0.7	1.8
18～29歳	69	1.4	4.3	2.9	2.9	0.0
30～39歳	81	1.2	2.5	1.2	0.0	1.2
40～49歳	101	6.9	2.0	6.9	1.0	0.0
50～59歳	107	1.9	2.8	2.8	0.9	1.9
60歳以上	153	5.2	3.3	3.9	1.3	3.3

男女平等社会実現のために大切なことは、「育児休暇と介護休暇の充実、取得しやすい社会づくりを進めること」が49.7%と最も多く、次いで「子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革」が37.4%、「女性を取り巻く様々な偏見や固定的な社会通念・慣習しきたりを改めること」が36.1%などとなっています。

性別にみると、“女性”で「子育てや介護、地域活動などへの男性の参画に対する男性の側の意識改革」が43.5%と、“男性”と比べて13.6ポイント多くなっています。

問15 男女平等社会の実現を図るために、今後、行政はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。（3つまで選択可）



※選択肢「地域活動（町内会・自治会など）で女性・若者が意見を言いやすい環境づくりを推進すること」は平成27年度に新設。

※選択肢「特にない」は平成22年度調査では「わからない」。

平成27年度

(単位：％(調査数は人))

	調査数	育児・保育施設や支援事業の充実	高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実	就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	学習機会の促進や意識啓発	家庭や職場などあらゆる場における男女平等への理解を深めるための学習機会の提供	男性の料理教室、介護教室、子育てなどの学習機会の提供	平等意識を育てる学校教育の充実	女性の職業教育・訓練の機会の充実	地域活動(町内会・自治会など)で女性・若者が意見を言いやすい環境づくりの推進	行政の政策決定や審議会への積極的な女性の登用	女性問題に関する情報提供、交流・相談窓口などの充実
全体	513	45.2	32.9	28.8	27.1	21.1	20.3	15.0	13.8	13.3	12.3	
男性	224	40.2	22.3	34.4	26.8	18.3	21.4	15.6	16.1	14.3	14.3	
女性	285	49.1	41.4	24.6	27.7	23.5	19.6	14.4	12.3	12.6	10.5	
18～29歳	69	60.9	17.4	20.3	21.7	37.7	14.5	11.6	7.2	10.1	15.9	
30～39歳	81	61.7	24.7	23.5	27.2	14.8	16.0	16.0	18.5	12.3	18.5	
40～49歳	101	45.5	32.7	39.6	23.8	21.8	18.8	16.8	8.9	11.9	7.9	
50～59歳	107	43.9	39.3	27.1	26.2	25.2	21.5	15.0	16.8	12.1	15.0	
60歳以上	153	30.1	39.2	30.1	32.0	13.7	24.8	15.0	15.7	17.0	8.5	

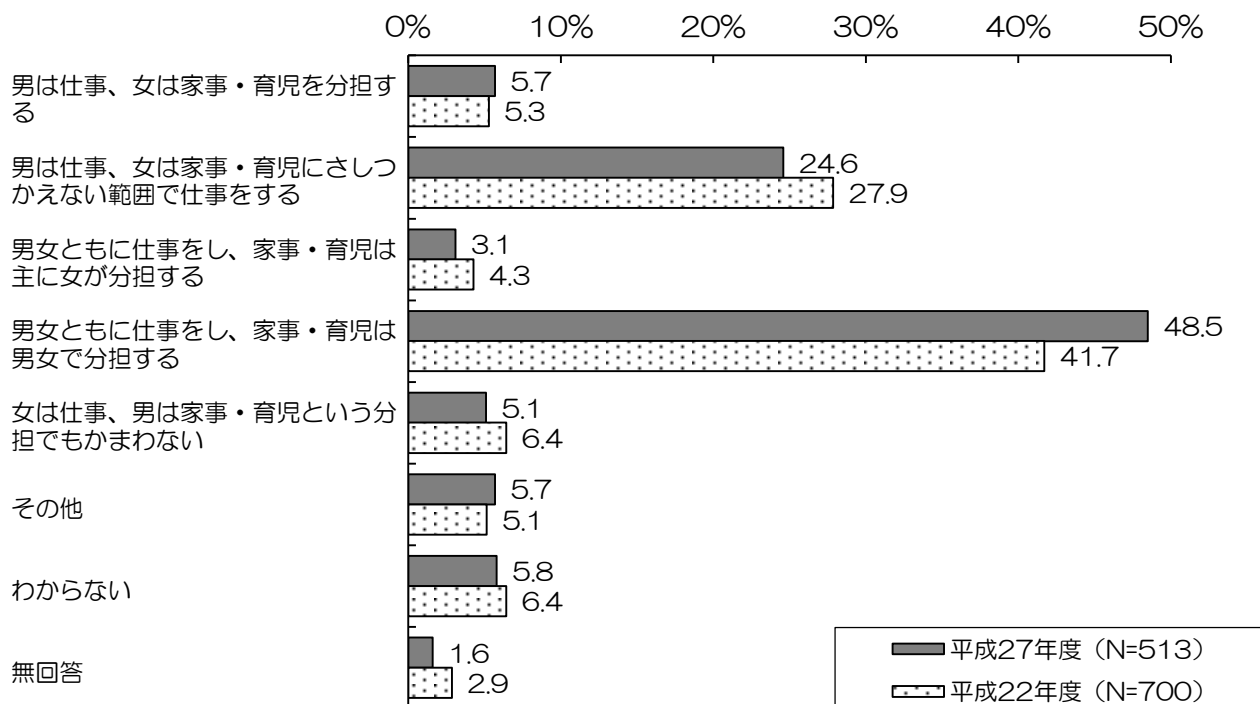
	調査数	民間企業等への女性の参画についての意識啓発	市内の女性団体・グループとその活動内容の情報ネットワークづくり	その他	特になし	無回答
全体	513	8.0	2.9	2.7	1.9	
男性	224	8.0	2.7	4.0	3.6	1.8
女性	285	8.1	3.2	1.8	0.7	3.2
18～29歳	69	7.2	0.0	2.9	4.3	1.4
30～39歳	81	12.3	4.9	1.2	1.2	2.5
40～49歳	101	5.0	1.0	5.0	2.0	0.0
50～59歳	107	10.3	3.7	1.9	1.9	1.9
60歳以上	153	6.5	3.9	2.6	1.3	5.9

男女平等社会実現のために行政が力を入れるべきことは、「育児・保育施設や支援事業の充実」が45.2%と最も多く、次いで「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実」が32.9%、「就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」が28.8%などとなっています。

年齢別にみると、“60歳以上”では「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または福祉施策の充実」が39.2%と最も多くなっています。

Ⅳ 家庭生活における役割分担について

問17 男女の役割分担について、本来はどうあるべきだと思いますか。（1つを選択）



平成27年度

（単位：％（調査数は人））

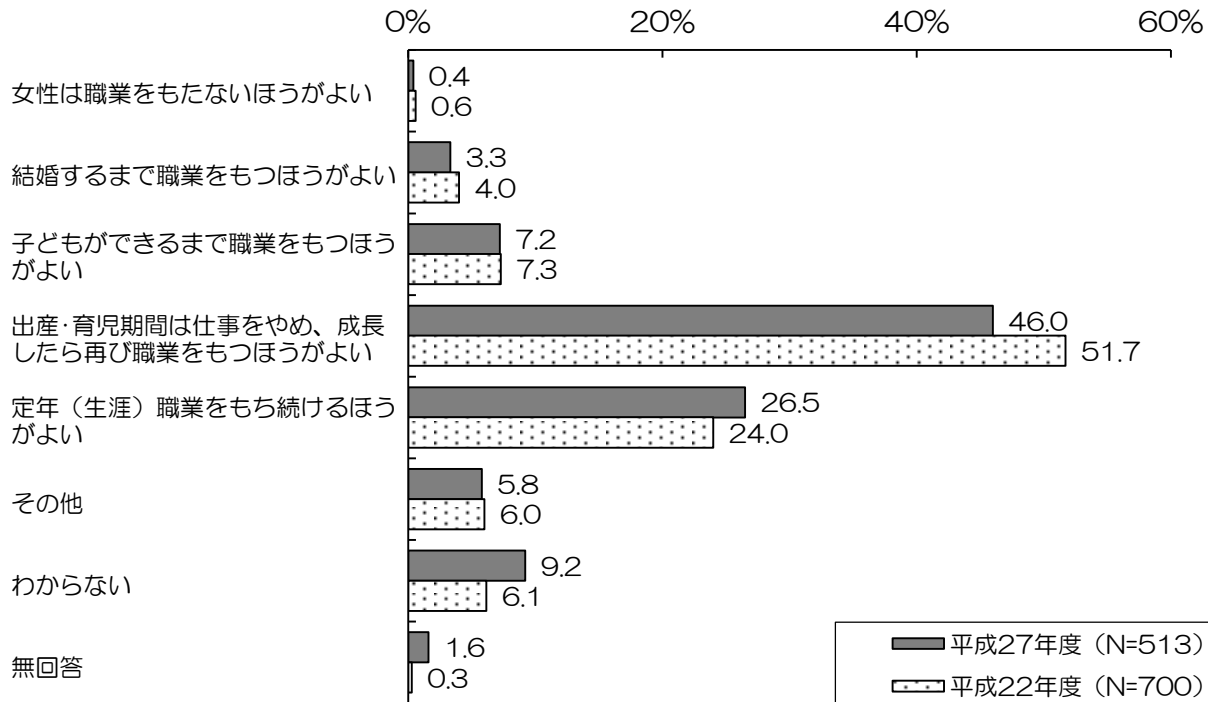
	調査数	男は仕事、女は家事・育児を分担する	男は仕事、女は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする	男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女が分担する	男女ともに仕事をし、家事・育児は男女で分担する	女は仕事、男は家事・育児という分担でもかまわない	その他	わからない	無回答
全体	513	5.7	24.6	3.1	48.5	5.1	5.7	5.8	1.6
男性	224	8.0	26.3	4.9	41.5	5.4	7.1	5.8	0.9
女性	285	3.9	23.2	1.4	54.0	4.9	4.6	6.0	2.1
18～29歳	69	4.3	13.0	2.9	59.4	7.2	4.3	8.7	0.0
30～39歳	81	7.4	23.5	3.7	48.1	3.7	8.6	4.9	0.0
40～49歳	101	7.9	26.7	2.0	31.7	10.9	9.9	6.9	4.0
50～59歳	107	3.7	24.3	3.7	52.3	3.7	7.5	4.7	0.0
60歳以上	153	5.2	29.4	2.6	52.3	2.0	0.7	5.2	2.6

男女の役割分担についての考え方は、「男女ともに仕事をし、家事・育児は男女で分担する」が48.5%と最も多く、次いで「男は仕事、女は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」が24.6%、「男は仕事、女は家事・育児を分担する」が5.7%などとなっています。

年齢別にみると、“40～49歳”で「女は仕事、男は家事・育児という分担でもかまわない」が10.9%と、他の年齢と比べて最も多くなっています。

V 職業や労働について

問18 あなたは、「女性と職業」についてどのようにお考えですか。(1つを選択)



平成27年度

(単位：％(調査数は人))

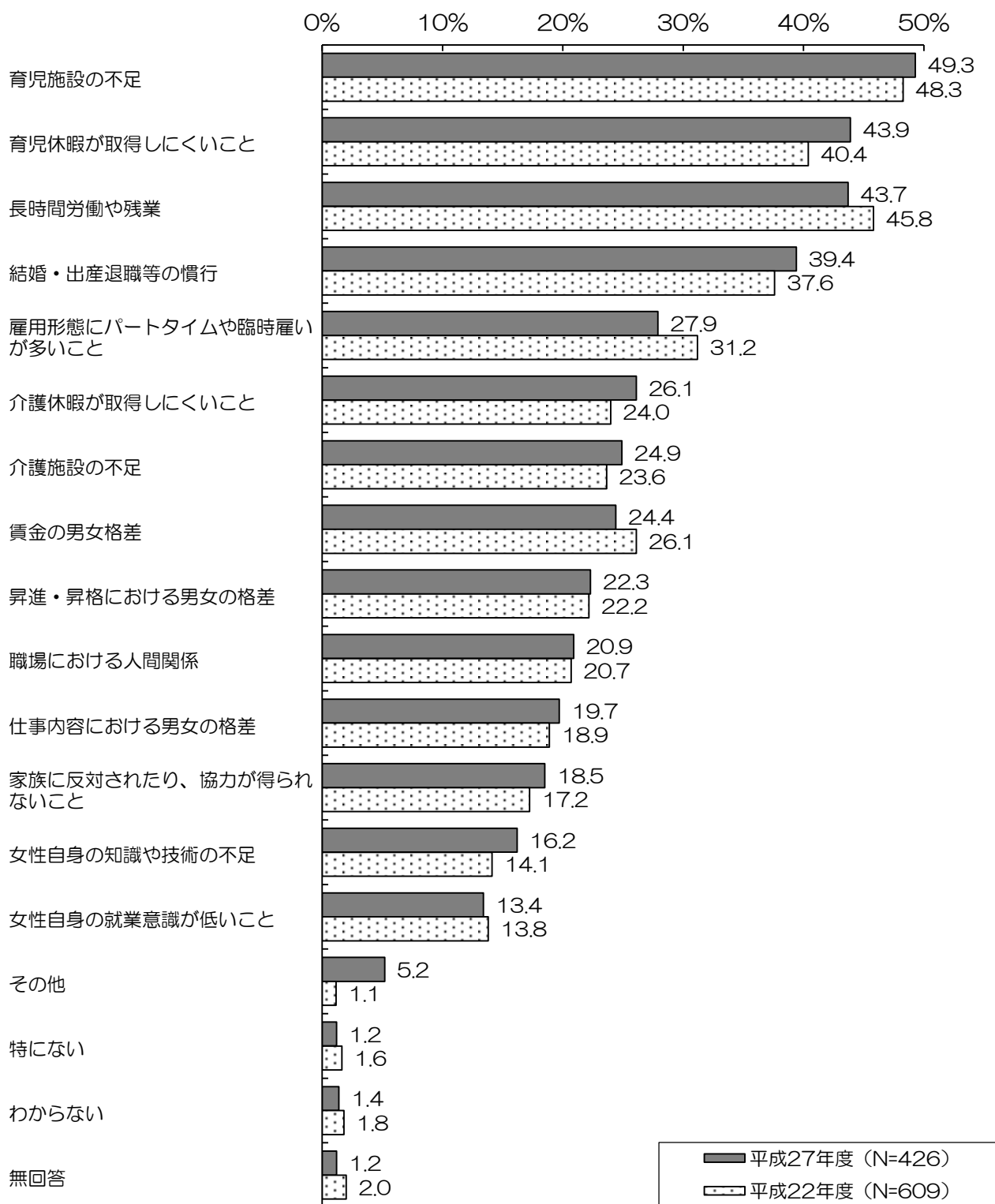
	調査数	女性 は職業 をもた ないほ うがよ い	結 婚す るま で職 業を もつ ほう がよ い	子 ども がで きる まで 職業 をも つ ほう がよ い	出 産・ 育児 期間 はし 事を やめ 、成 長し たら 再び 職業 をも つ ほう がよ い	定 年(生 涯)職 業を もち 続け るほ うが よい	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体	513	0.4	3.3	7.2	46.0	26.5	5.8	9.2	1.6
男性	224	0.4	4.9	8.5	45.1	21.9	8.0	10.7	0.4
女性	285	0.4	2.1	6.3	46.7	30.2	4.2	8.1	2.1
18～29歳	69	0.0	7.2	8.7	42.0	26.1	7.2	8.7	0.0
30～39歳	81	0.0	1.2	11.1	49.4	23.5	6.2	8.6	0.0
40～49歳	101	0.0	3.0	5.9	42.6	26.7	8.9	11.9	1.0
50～59歳	107	0.9	0.9	4.7	53.3	23.4	6.5	8.4	1.9
60歳以上	153	0.7	4.6	7.2	43.8	30.1	2.6	8.5	2.6

「女性と職業」についての考え方は、「出産・育児期間は仕事をやめ、成長したら再び職業をもつほうがよい」が46.0%と最も多く、次いで「定年(生涯)職業をもち続けるほうがよい」が26.5%、「子どもができるまで職業をもつほうがよい」が7.2%などとなっています。

年齢別にみると、「18～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」で「女性には職業をもたないほうがよい」と答えた方はいませんでした。

<問18で「2. ～5.」とお答えの方に伺います。>

問19 女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全て選択可)



平成27年度

(単位：％(調査数は人))

	調査数	育児施設の不足	育児休暇が取得しにくいこと	長時間労働や残業	結婚・出産退職等の慣行	雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと	介護休暇が取得しにくいこと	介護施設の不足	賃金の男女格差	昇進・昇格における男女の格差	職場における人間関係
全体	426	49.3	43.9	43.7	39.4	27.9	26.1	24.9	24.4	22.3	20.9
男性	180	43.3	42.8	40.6	41.1	25.0	18.9	21.7	22.2	26.1	14.4
女性	243	54.3	45.3	46.5	38.7	30.0	31.7	27.2	26.3	19.3	25.9
18～29歳	58	65.5	44.8	37.9	50.0	27.6	17.2	13.8	24.1	31.0	27.6
30～39歳	69	58.0	44.9	55.1	49.3	21.7	21.7	20.3	30.4	21.7	20.3
40～49歳	79	50.6	48.1	38.0	29.1	26.6	24.1	24.1	17.7	20.3	21.5
50～59歳	88	46.6	42.0	44.3	33.0	27.3	35.2	26.1	27.3	21.6	26.1
60歳以上	131	38.9	42.0	43.5	40.5	32.8	27.5	32.1	23.7	20.6	14.5

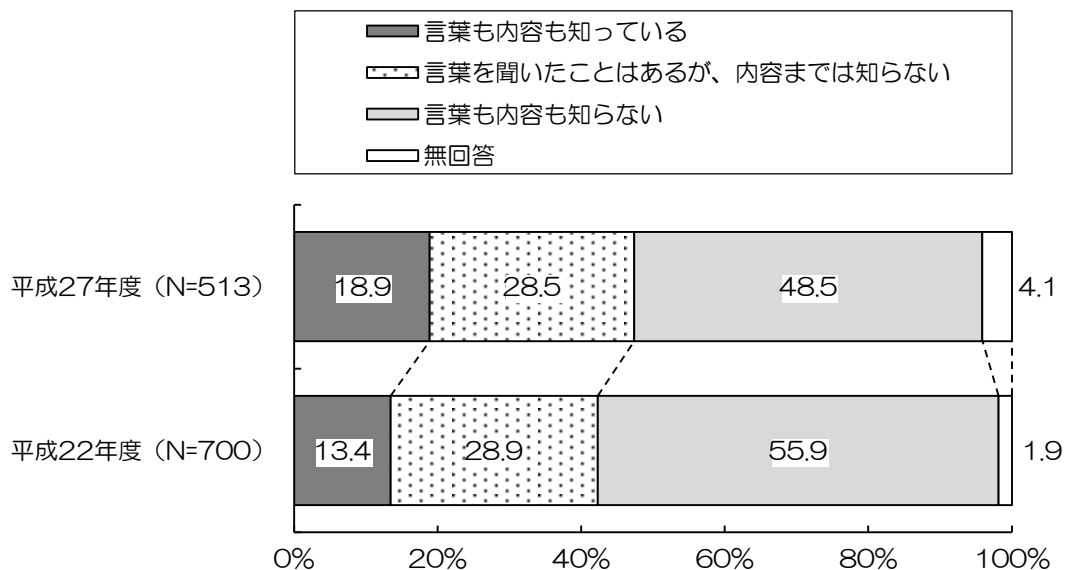
	調査数	仕事内容における男女の格差	家族に反対されたり、協力が得られないこと	女性自身の知識や技術の不足	女性自身の就業意識が低いこと	その他	特にない	わからない	無回答
全体	426	19.7	18.5	16.2	13.4	5.2	1.2	1.4	1.2
男性	180	29.4	12.2	15.0	16.1	3.3	1.7	1.7	0.0
女性	243	12.8	23.5	17.3	11.5	6.2	0.4	1.2	2.1
18～29歳	58	24.1	13.8	8.6	5.2	6.9	0.0	0.0	0.0
30～39歳	69	20.3	26.1	18.8	17.4	7.2	0.0	0.0	0.0
40～49歳	79	15.2	22.8	19.0	20.3	8.9	0.0	1.3	0.0
50～59歳	88	13.6	18.2	13.6	15.9	3.4	0.0	2.3	0.0
60歳以上	131	24.4	14.5	18.3	9.2	2.3	3.8	1.5	3.8

女性が働く上での障害は、「育児施設の不足」が49.3%と最も多く、次いで「育児休暇が取得しにくいこと」が43.9%、「長時間労働や残業」が43.7%などとなっています。

年齢別にみると、“60歳以上”では「長時間労働や残業」が43.5%と最も多くなっています。

Ⅵ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問22 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉をご存じですか。（1つを選択）



平成27年度

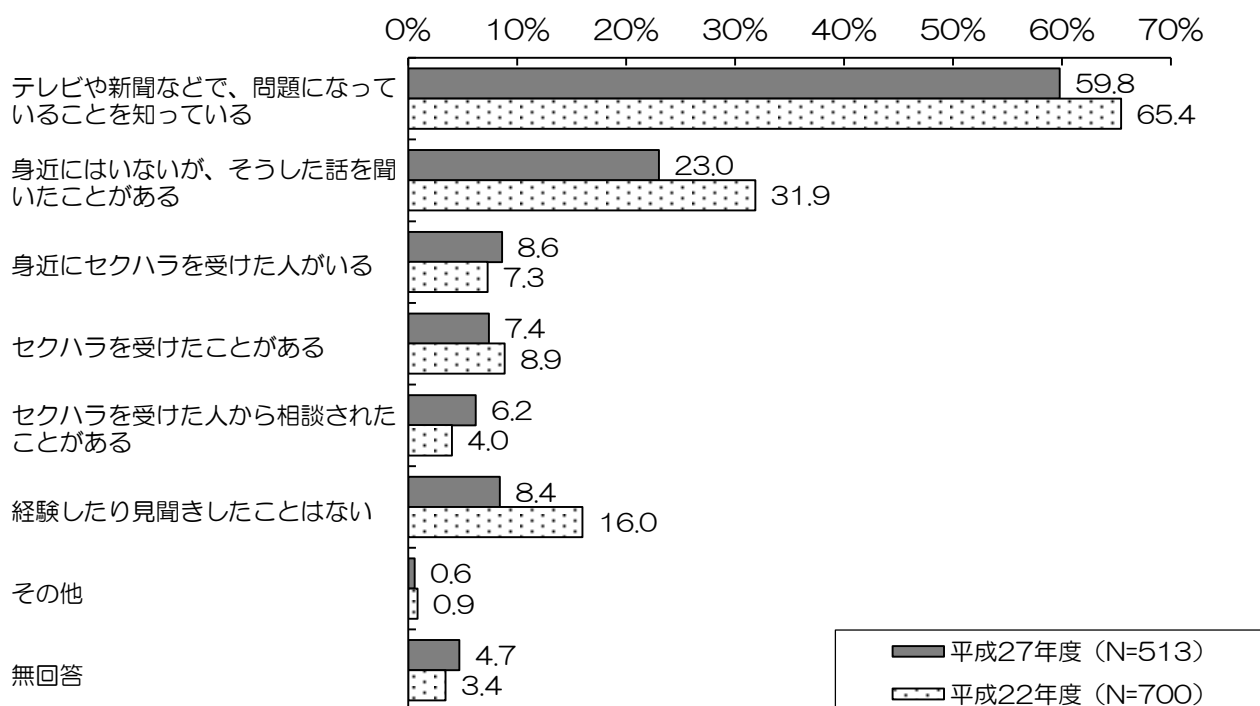
(単位：％（調査数は人）)

	調査数	言葉も内容も知っている	言葉を聞いたことはあるが、内容までは知らない	言葉も内容も知らない	無回答
全体	513	18.9	28.5	48.5	4.1
男性	224	26.3	31.7	38.4	3.6
女性	285	13.3	26.0	56.5	4.2
18～29歳	69	30.4	15.9	53.6	0.0
30～39歳	81	19.8	23.5	55.6	1.2
40～49歳	101	20.8	27.7	49.5	2.0
50～59歳	107	18.7	28.0	51.4	1.9
60歳以上	153	12.4	37.9	39.9	9.8

ワーク・ライフ・バランスの認知度は、「言葉も内容も知らない」が48.5%と最も多く、次いで「言葉を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が28.5%、「言葉も内容も知っている」が18.9%となっています。性別にみると、“女性”で「言葉も内容も知らない」が56.5%と、“男性”と比べて18.1ポイント多くなっています。

Ⅶ セクシュアル・ハラスメントについて

問24 あなたは、これまでに、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（あてはまるもの全て選択可）



平成27年度

（単位：％（調査数は人））

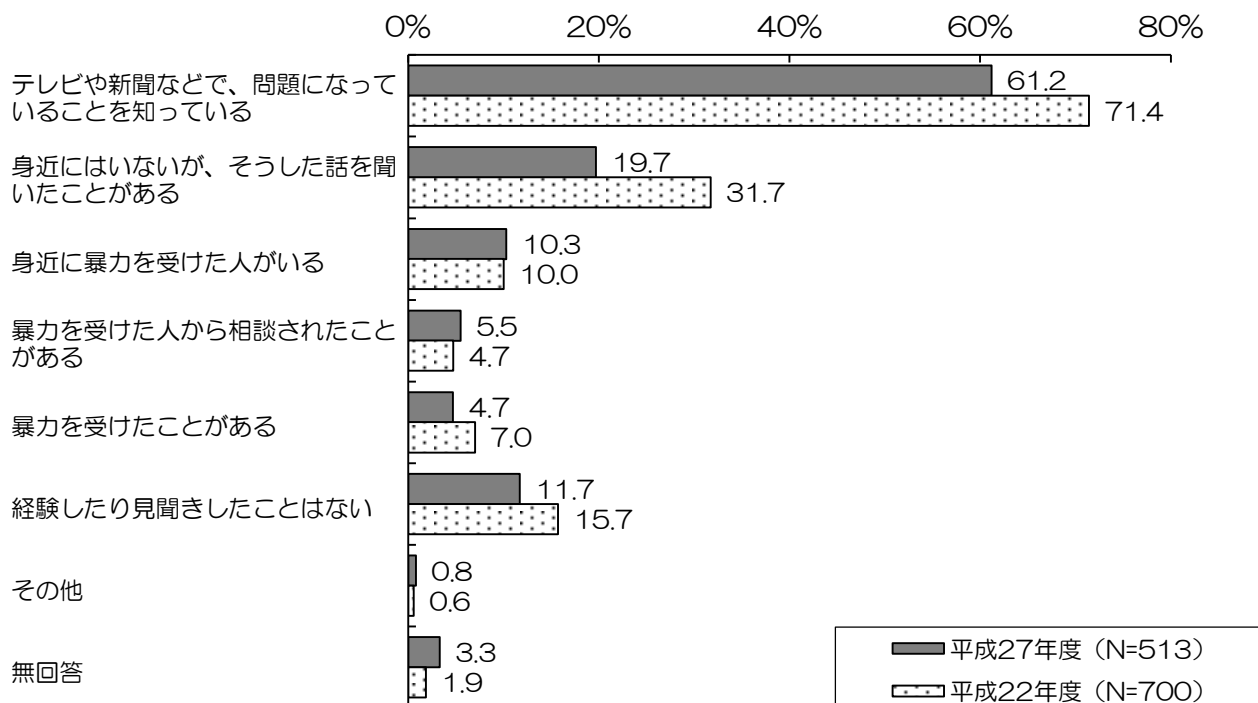
	調査数	テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	身近にセクハラを受けた人がある	セクハラを受けたことがある	セクハラを受けた人から相談されたことがある	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
全体	513	59.8	23.0	8.6	7.4	6.2	8.4	0.6	4.7
男性	224	63.8	24.6	8.9	2.2	7.1	7.6	0.9	4.9
女性	285	57.2	22.1	8.4	11.6	5.6	8.8	0.4	3.9
18～29歳	69	49.3	27.5	5.8	14.5	11.6	11.6	0.0	0.0
30～39歳	81	55.6	25.9	13.6	7.4	8.6	9.9	1.2	1.2
40～49歳	101	63.4	18.8	8.9	9.9	5.0	7.9	0.0	1.0
50～59歳	107	59.8	26.2	12.1	10.3	7.5	8.4	0.0	0.0
60歳以上	153	64.7	20.3	4.6	0.7	2.6	6.5	1.3	13.7

セクハラ経験の有無は、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が59.8%と最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が23.0%、「身近にセクハラを受けた人がある」が8.6%などとなっています。また、「セクハラを受けたことがある」は7.4%となっています。

Ⅷ ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問26 これまでに、夫・妻や恋人など親しい間柄にある男女間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）について、経験したり見聞きしたりしたことがありますか。

（あてはまるもの全て選択可）



平成27年度

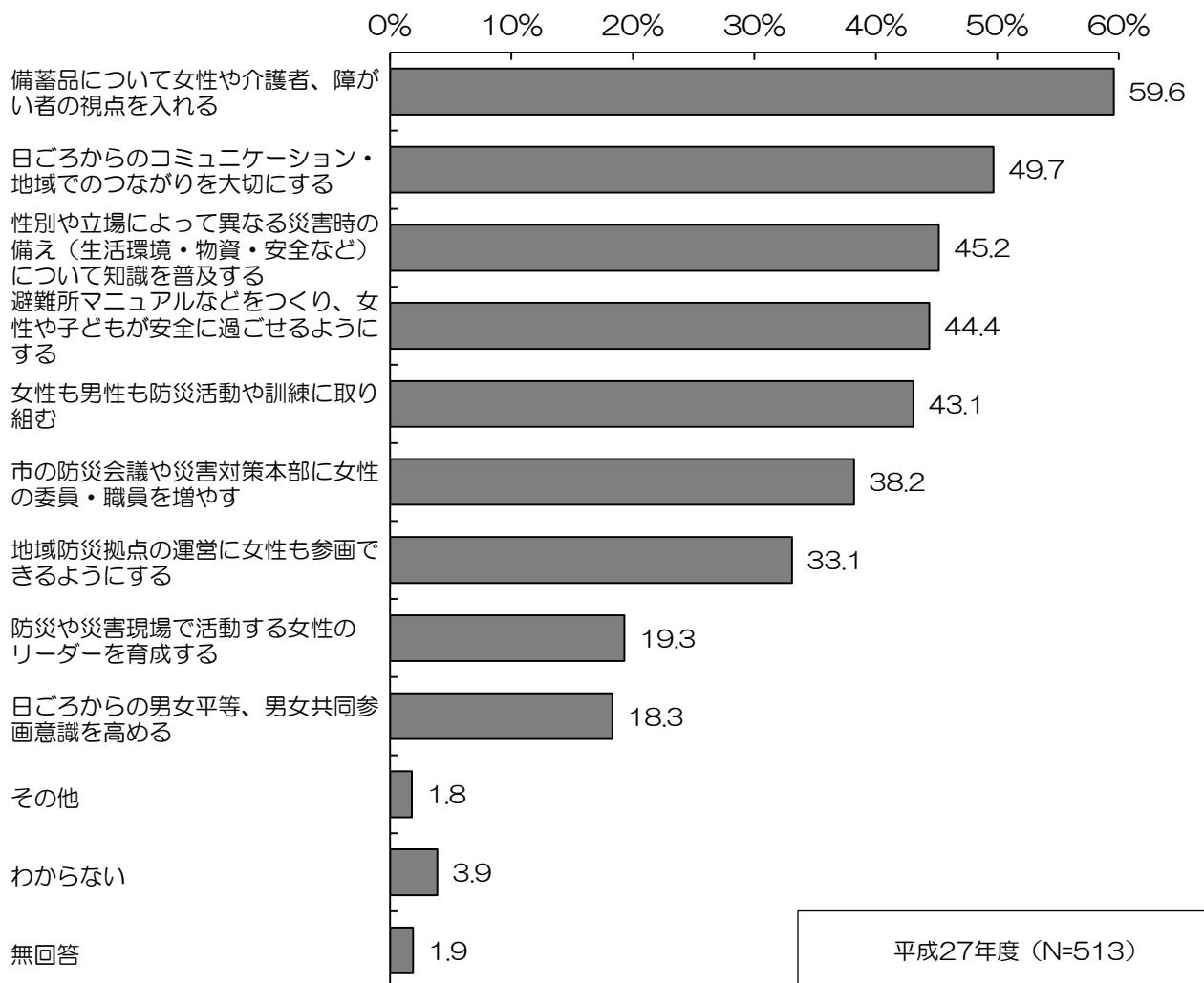
（単位：％（調査数は人））

	調査数	テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている	身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	身近に暴力を受けた人がいる	暴力を受けた人から相談されたことがある	暴力を受けたことがある	経験したり見聞きしたことはない	その他	無回答
全体	513	61.2	19.7	10.3	5.5	4.7	11.7	0.8	3.3
男性	224	67.0	23.2	4.9	4.0	1.3	10.3	1.8	2.7
女性	285	57.2	17.2	14.4	6.7	7.4	12.6	0.0	3.5
18～29歳	69	59.4	21.7	7.2	5.8	5.8	11.6	0.0	1.4
30～39歳	81	50.6	21.0	17.3	9.9	7.4	19.8	0.0	1.2
40～49歳	101	68.3	9.9	10.9	2.0	4.0	10.9	2.0	0.0
50～59歳	107	66.4	24.3	13.1	6.5	5.6	7.5	0.0	0.0
60歳以上	153	59.5	21.6	5.2	4.6	2.6	11.1	1.3	9.8

DV経験の有無は、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が61.2%と最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」が19.7%、「身近に暴力を受けた人がいる」が10.3%などとなっています。また、「暴力を受けたことがある」は4.7%となっています。

IX 防災・復興について

問29 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していない、平時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。（あてはまるもの全て選択可）



※この設問は平成27年度に新設されたため、経年比較はない。

平成27年度

(単位：％(調査数は人))

	調査数	備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる	日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする	性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する	避難所マニュアルなどをつくり、女性や子どもが安全に過ごせるようにする	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす	地域防災拠点の運営に女性も参加できるようにする	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他
全体	513	59.6	49.7	45.2	44.4	43.1	38.2	33.1	19.3	18.3	1.8
男性	224	56.3	49.1	44.6	43.3	51.8	44.6	41.5	23.2	24.1	1.8
女性	285	63.2	50.2	46.3	46.0	36.5	33.7	27.0	16.5	14.0	1.8
18～29歳	69	55.1	47.8	42.0	44.9	49.3	34.8	24.6	11.6	20.3	1.4
30～39歳	81	67.9	45.7	49.4	55.6	43.2	48.1	37.0	16.0	22.2	0.0
40～49歳	101	58.4	42.6	56.4	49.5	35.6	43.6	28.7	16.8	8.9	2.0
50～59歳	107	73.8	55.1	46.7	43.0	43.0	35.5	40.2	21.5	19.6	1.9
60歳以上	153	49.0	54.2	36.6	36.6	45.8	32.7	33.3	24.8	20.9	2.6

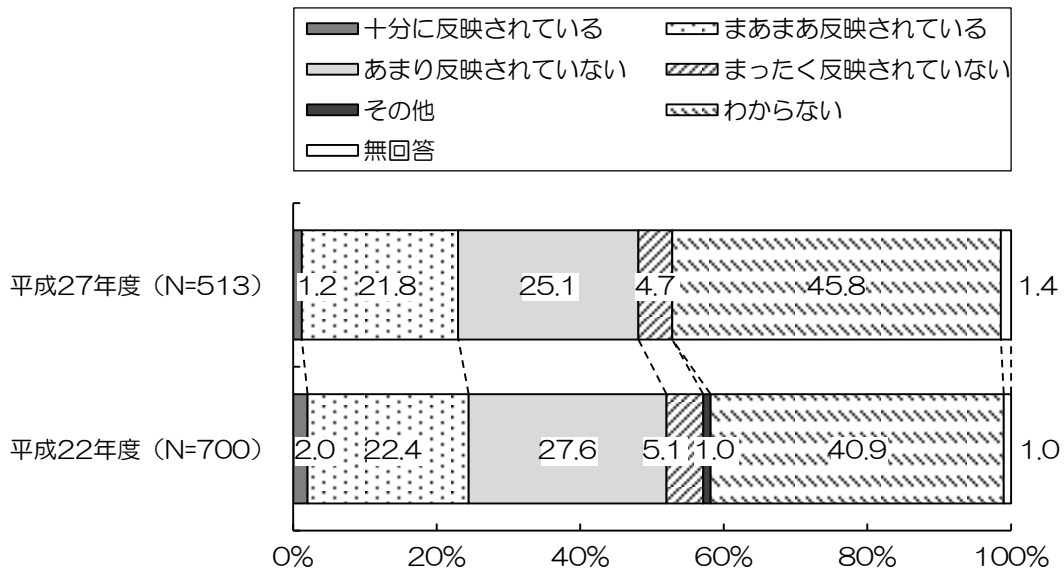
	調査数	わからない	無回答
全体	513	3.9	1.9
男性	224	2.2	0.9
女性	285	4.9	2.5
18～29歳	69	8.7	0.0
30～39歳	81	3.7	0.0
40～49歳	101	4.0	0.0
50～59歳	107	2.8	0.9
60歳以上	153	2.6	5.2

災害対応への女性参画のために必要な施策は、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が59.6%と最も多く、次いで「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が49.7%、「性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する」が45.2%などとなっています。

性別にみると、“男性”で「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が51.8%と、“女性”と比べて15.3ポイント多くなっています。

X 男女の社会参加について

問32 あなたは市政に女性の意見が反映されていると思いますか。(1つを選択)



平成27年度

(単位：％(調査数は人))

	調査数	十分に反映されている	まあまあ反映されている	あまり反映されていない	まったく反映されていない	その他	わからない	無回答
全体	513	1.2	21.8	25.1	4.7	0.0	45.8	1.4
男性	224	2.7	26.3	26.8	3.6	0.0	40.2	0.4
女性	285	0.0	18.2	23.9	5.6	0.0	50.5	1.8
18～29歳	69	1.4	15.9	18.8	7.2	0.0	55.1	1.4
30～39歳	81	0.0	11.1	23.5	7.4	0.0	58.0	0.0
40～49歳	101	1.0	28.7	19.8	3.0	0.0	47.5	0.0
50～59歳	107	1.9	21.5	28.0	5.6	0.0	42.1	0.9
60歳以上	153	1.3	26.1	30.1	2.6	0.0	37.3	2.6

市政への女性の意見の反映は、「あまり反映されていない」が25.1%と最も多く、次いで「まあまあ反映されている」が21.8%、「まったく反映されていない」が4.7%などとなっています。また、「わからない」が45.8%などとなっています。